

わが家の宝物

あたしのおじいちゃんとおばあちゃんは、お米を育てています。わたしたちは、そのお米をもらっています。わたしは、お米がだいすきなので、たくさん食べられてうれしいです。でも、わたしは、お米作りの仕事をほとんど手伝っていません。お父さんは、休みの日に、手伝いに行っています。今年の夏も暑い中、わたしがあそびに行っている間も、おじいちゃんやおばあちゃんと草かりに行っていました。しかも、いねに害虫がついて、悪さをしていたというのです。お米作りは、ハチハの仕事があると言われているわけが分かったような気がしました。

わたしは、おじいちゃんとおばあちゃんにインタビューをしました。聞いたのは、いつから田んぼの仕事を始めるのか、大変なことやうれしいことは何かです。米作りは、四月から十月までするそうです。もちろん、それ

以外の月もすることがあるそうです。そしてこの仕事は、五十五年前からしていると聞きました。そんなに長い間続けていることを知り、おどろきました。そんな中で大変なことは、草かりといのししの対策、そして、田んぼの水と田んぼ周りの電さくの管理だと教えてもらいました。草をかって、次から次生えてきてきりがありません。田んぼは、山の中なのでいのししの被害が大きく、大変だと聞きました。そのため電さくです。しかし、うれしいこともありました。草かりをした後のじゅうじつ感、そして、田んぼがぶじに終わり、しゅうかくした後の満足感でした。大変なことたくさんあるけれど、おいしいお米ができるから草かりや水回りの管理ができているかなと思いました。

おぼんにお母さんのお姉さんが帰ってきてました。その時、お米のねだんが上がっていること、お米が不足していることを聞きました。わたしたちは、お米をもらっているのですね。

ぜん気にしていなかったけれど、この話を聞いてから、改めてお米を作ってもらっていることのありがたさがよく分かりました。もう一つ聞いてなっとくしたことがあります。おばさんが、ぐうぜんびちく米を見つけて買って食べてみたそうです。ふくろを開けてみたら、古いお米のにおいがしたというのです。食べてもおいしくなかったという事です。やっぱり、古いお米はおいしくないんだなあと知ったし、わたしは、いつもおいしいお米が

食べられて幸せだと思いました。

おいしいお米が食べられるのは、おじいちゃんたちのおかげと感謝しています。社会の学習で、後をつぐ人が少なくなると学びました。わたしは、今までも手伝っていないかったけれど、これからは、少しでも役に立ちたいと思います。そして、ずっとお米を育て続けてきたわが家の田んぼを大事に、これからも、かぞくみんなで守っていききたいと思っています。